



新年明けましておめでとうございます。

平成25年の年頭にあたり、町民の皆様は謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、皆様方からのご支援により、2期目の町政運営の重任を担わせていただいております。早3年が経過しようとしており、今年はその最終の年となります。

就任以来、町民の皆様方にお約束をしたことを一日も早く実現し、町を再生・発展させていくことができるよう、皆様方の知恵をお借りしながら、全力で取り組んできたところであります。

昨年を振り返ってみますと、これほど人の「ご縁」「縁（えにし）」を感じた年はございませんでした。

名誉町民に顕彰したお二人は、穴水城主の長谷部信連公の縁（ゆかり）の長家第34代当主「長昭連」さん、そして、戦時中に穴水に疎開されていたご縁で交流のある「海老名香葉子」さんです。

また、ご縁があり名誉町民への記念品を作製していただいた当町出身の漆芸作家の「鳥毛清」さんは、一昨年の日本伝統工芸展で最高賞を受賞しており、将来を期待されています。

新年明けましておめでとうございます。

議会を代表して、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

町民のみなさまにおかれましては、希望にあふれた新春をお迎えのこと、心からお慶び申し上げます。

また、日頃から議会活動及び議員活動に、深いご理解とご協力を賜り、心から厚くお礼申し上げます。

さて、世界に目を転じますと、欧米の景気低迷にともない、需要の減少や価格競争の激化、欧州の金融不安、円高の進行など、日本を取り巻く経済環境は一層厳しさを増しており、先行きの不透明感が払拭（ふっしょく）できない状況にあります。

また、我が国においては、少子高齢化、長引くデフレ、歴史的な円高、巨額の政府債務など日本経済が抱える難題が山積しており、かつてない試練を迎えています。

一方、地方におきましても、社会保障関係の出費拡大で、地方財政は大変苦しい運営を強いられており、また、深刻さを増す過疎化、そして少子高齢化に伴う人口減少、さらには産業の停滞など、いまだかつてない新たな事態に日々直面しております。

これらは、将来の本町の発展を図る上で、克服すべき、大変大きな課題となっておりますが、この局面を打開するためには、更に創意工夫を重ね、若者が集う十分魅力のある活力溢（あふ）れた地域社会を、実現することが、何より肝要であると思えます。

議会といたしましては、これら社会情勢を踏まえて、町民の皆様方が、穴水町を誇りに想い、心から住む喜びを噛みしめることのできる安心・安全で魅力ある、まちづくりの実現を目指して、積極的な活動に取り組んでまいりたいと考えております。

そして、師走の12月に日本大学4年の「遠藤 聖大」君が全日本相撲選手権で優勝、日本一という明るい話題をいただきました。今年は角界入りし、さらに盛り上がるのではないかと期待をしております。

その他に、大相撲の「追手風親方」、モデルの「三枝 ころ」さん、音楽家の「山田公平」さんなどたくさんの方の穴水出身の方がおられます。皆さんは、ふるさとを愛し、ふるさとに思いを寄せています。ふるさとを離れているとその思いがさらに強くなるのだと思います。

今後、このご縁、縁（えにし）を大切にして、より一層、穴水町の未来が素晴らしいものになるように、穴水縁（ゆかり）の皆様方の力をお借りして、「オール穴水」として町民の皆様とともに、まちづくり、地域づくりに邁進したいと考えております。

さらに、ホットな話題がもう一つございます。かねてからお願いしていた、町内最大の企業である「穴水電子工業」が「穴水村田製作所」に社名を変更いたしました。世界の「村田製作所」のグループ会社であることが明確となり、企業イメージが上がり、強いては町のイメージアップにもつながります。

そして、町民皆様の永年の悲願であった「能登有料自動車道路」が本年4月から「ふるさと紀行のと里山海道」の愛称で、ようやく全線が無料化となります。たくさんの方が訪れやすくなり、「まいもんまつり」や「世界農業遺産」の活用など、観光振興の好機となります。

穴水町に住む私たちも、このチャンスを活かし、「安全」「元気」「魅力」「協働」をキーワードとして、『住む人々の誰もがみな暮らしの豊かさを実感でき、誇りと愛着をもてるまち ふるさと穴水』の実現のために尽力してまいりたいと存じます。

終わりになりますが、皆様方のご健康とご多幸を心から祈念申し上げますとともに、本年も格段のお力添えを賜りますようお願いいたします。年頭のご挨拶とさせていただきます。

平成二十五年一月

穴水町長 石川 宣雄